



文化学園リポジトリ

Academic Repository of BUNKA GAKUEN

服飾文化共同研究拠点／文化ファッション研究機構

Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture / Bunka Fashion Research Institute

文化学園大学

Bunka Gakuen University

文化服装学院

Bunka Fashion College

文化ファッション大学院大学

Bunka Fashion Graduate University

文化外国語専門学校

Bunka Institute of Language

Title	『伊呂波字引 和英節用』について：『和英語林集成』との比較を中心に
Author(s)	近藤, 尚子
Citation	文化女子大学紀要. 人文・社会科学研究 11 (2003-01) pp.33-46
Issue Date	2003-01-31
URL	http://hdl.handle.net/10457/2726
Rights	

『伊呂波字引 和英節用』について

——『和英語林集成』との比較を中心に——

近 藤 尚 子*

On the *Irohajibiki waeisetsuyo*

Takako Kondo

要 旨 明治期は社会や文化が大きく動き、新しい言葉が次々に生み出された。本稿では明治18年に出版された『伊呂波字引 和英節用』という小さな和英辞典をとりあげる。一方、明治を代表する和英（英和）辞典として『和英語林集成』がある。この辞書は明治5年に再版が、明治19年に三版が出版されている。この『和英語林集成』と比較することによって『伊呂波字引 和英節用』の性格の一端を明らかにし、この時代の日本語の状況の中に位置づけることをめざす。比較の結果、本書には『和英語林集成』にあまり収載されていない外国の国名・地名が多く載せられ、数を含む項目も網羅的で、「～学」については新旧の名称が混在するという状況が明らかになった。本書は全体としては『和英語林集成』の三版側に位置づけることができる。

はじめに

明治期は社会や文化が大きく動いた時代である。新聞や啓蒙書が出版され、また、翻訳書や辞書・辞典も数多く作られた。教育や通信などの新しい制度の整備も進んだ。そのような中で新しいことばが次々に生み出された。

本稿では『伊呂波字引 和英節用』（以下、『伊呂波和英』と称する）という小さな和英辞典をとりあげる。森貞次郎・遠藤進正によって編纂された『伊呂波和英』は、縦約13センチ、横約9.5センチ、収載語数約7700語、という非常にハンディなものである。序文に次のようにある。長くなるが序文全文を掲げる（原文縦書）。

英語ヲ學ブ者其ノ會話作文ヲ習フニ當リ其ノ用ヒントスル語ヲ知ラズシテ之ヲ索ムルニ苦シム事多シ而シテ之ニ便スルノ書唯米人ヘボン氏ノ伊呂波字書アルノミ而シテ其ノ刊行十余年前ニ在ルヲ以テ譯語ノ今日ニ異ナルモノ多ク或ハ其ノ語ノ廢滅ニ屬スルモノ多シ殊ニ其ノ卷ノ浩瀚ナルヲ以テ携帶ニ便ナラズ今、古語廢語ノ繁ヲ去リ新語ノ要ヲ採リ一小字書ヲ成ス名ケテ伊呂波引和英節用ト曰フ小冊同ヨリ悉ク言語ヲ網羅スル能ハズ唯専ラ日用ニ近キ者ヲ蒐集ス其ノ脱漏不足ト譯字ノ妥當ヲ欠ク者ノ如キハ之ヲ再刊ノ日ニ補正セントス

*今野尚子 本学助教授 日本語学

この序文から次のような点が明らかになる。

①英語学習者が会話や作文を習う際に語を知るための辞書としては「ヘボン氏ノ伊呂波字書」があるだけである。

②この「伊呂波字書」には次のような難点がある。

1 十年余りに刊行されたので、収載語や訳語に時代に合わないものが多くなっている。

2 大きな辞書なので携帯に不便である。

③この失を補うべく作った『伊呂波和英』は小冊であり、日用に近い語を集める。

まず、「ヘボン氏ノ伊呂波字書」とあるが、これは『和英語林集成』（以下、『語林集成』）のことと考えられる。周知のごとく『語林集成』は慶應3年（1867）に初版が、明治5年（1872）に再版が、明治19年（1886）に三版が出版されている。また見出し語はローマ字表記され、その綴りのアルファベット順に排列されている。厳密な意味で序にいうような「伊呂波」ではないが、初版から再版・三版に至るまで巻頭に「A TABLE OF JAPANESE KANA.」としてイロハ順にそれぞれ何種類かの文字を掲げるので、「伊呂波字書」と呼んだものか。さて、『伊呂波和英』は刊記によれば明治18年（1885）4月に出版されている。この序文でいう「ヘボン氏ノ伊呂波字書」は『語林集成』初版か再版をさすと考えて以下の論を進める。

さらに「其ノ刊行十余年ノ前」はどうかというと、明治18年から見て慶應3年は18年前、明治5年は13年前であり、どちらも「十余年ノ前」に該当しそうである。しかし『語林集成』の与えた影響の大きさを考えるならば、再版が出版されているのにそれを参照しなかったとは考えにくい。ここでは「ヘボン氏ノ伊呂波字書」をまずは再版と仮定して検討を進める。』

『和英語林集成』は周知のごとく初版から再版、再版から三版のそれぞれの段階で、いずれも大幅な改訂・増補を行っている。そして三版の出版は先述の通り『伊呂波和英』出版の1年後の明治19年である。このことと序文に述べられていることを考え併せるとき、本書について検討すべきことがらが自ずと明らかになる。『語林集成』再版から三版への増補は、明治初年から十年代にかけての社会や生活や言語の変化を反映しているととらえることができる。『語林集成』再版から三版への増補については三版のPREFACEで、「During the fourteen years which have elapsed since the publication of the last edition of this Dictionary, the Author has kept it constantly before him, correcting errors, improving and enlarging the definitions, and adding new words and illustrations, according as his time and other important engagements allowed him. (中略) Still there is an addition of more than ten thousand words to the Japanese and English part.」と述べられている。これによれば再版から三版へは10000語以上の増補が行われた。それは「words only as are in popular and general use」に限定されている。三版の前年に出版された『伊呂波和英』をこの流れの中でどのように位置づけるかということが本稿で明らかにすべき最大の課題であろう。その際検討しなければならないのは次の2点である。

①「古語廃語ノ繁ヲ去リ新語ノ要ヲ採リ」について

「繁ヲ去リ」の証明は難しいが、「新語ノ要ヲ採リ」については『語林集成』再版にないものを抽出し、三版との一致状況をみることによってどのような語を「増補」したのかを考えることができる。

②「唯専ラ日用ニ近キ者ヲ蒐集ス」について

『語林集成』再版と一致するもの、逆に『語林集成』には再版にも三版にも収載されていないものを抽出し、どのような語によって構成されているかを考えることによって、本書の性格の一端を明らかにすることができる。

以上の二点を考察することを目標として、本稿では『伊呂波和英』を『語林集成』再版・三版と比較していく。²⁾

I 「一致」の認定について

個々の項目についての検討に入る前に「一致」をどう認定するかを考えておかなければならない。まず両書の形態をいくつかの項目について対照してみる。『伊呂波和英』のカタカナのルビは便宜上()に入れて示した。

『伊呂波和英』	『語林集成』再版
疣 (イボ) Wart (ウアート)	I BO, イボ, 疣, A wart, small tumor.-ga <i>dekita</i> , have a wart.
熬 (イル) (物ヲ) Parch (パーチ)	I RI, -ru, -tta, イル, 煎, t.v.To parch, roast. <i>Mame wo-</i> , to parch peas. <i>Cha wo-</i> , to fire tea.
一致 (イツチ) Agreement (アグリーメント)	I T-CHI, イツチ, 一致, Together, at the same time, with one accord, one heart.
織緯 (センキ) Fibres (フキブルス)	S EN-I, センイ, 織緯, (tate yoko). The small fibres which cross each other in the texture or web of silk or cloth; the lines of latitude and longitude in a map. <i>Kinu no-</i> , the web of silk. <i>kawa no-ga katai</i> , the texture of the skin is firm.- <i>no miyak-kuwan</i> , the capillary vessels.

『伊呂波和英』は基本的にカタカナでよみを添えた漢字の見出し語と、それに対応する英語を、これもカタカナで発音を添えた形で示している。上の例で一目して明らかのように、『伊呂波和英』は『語林集成』に比してひとつひとつの項目が簡潔である。序にもあったとおり、『語林集成』が「巻ノ浩瀚ナル」のに対して本書は「一小字書ヲ成ス」ことを目指している。そのためひとつの見出し語に対してそれに対応する英語は基本的にひとつである。また、冠詞や不定詞に付す toなどはほとんど示されない。その意味できわめて日本的であるといえる。一方の『語林集成』は、ひとつの見出し語に対して複数の語をあてることも多い。また、単語ではなく文によって語の意味を説明しようとしている項目も多い。さらに、慣用的な表現も例文を載せて解説している。その意味で非常に丁寧に解説を加えているということが出来る。極言すれば、『語林集成』は見出し語を英語で説明しようとし、『伊呂波和英』は見出し語を英語で何というかを示そうとしているのである。

このように本来の目的が異なっているのであるから、厳密な意味で両書の個々の項目が一致する

ことはまれである。『伊呂波和英』の一項目は①漢字②カタカナの傍訓③対応する英語④カタカナの発音とで構成されている。一方、『語林集成』の一項目はAローマ字の見出し語(発音も示すと考えられる) Bカタカナの語形C漢字D対応する英語E(項目により)慣用句とその英訳とから成っている。『伊呂波和英』の④が『語林集成』にはなく、逆に『語林集成』のA・Eが『伊呂波和英』にはない。そこでこの④を除く①②が『語林集成』の該当する項目に一致し、③が含まれている場合を「完全一致」とみなすこととする。上の例で言えば織緯(センイ)がこれにあたる。

ところで『伊呂波和英』でも『語林集成』でも見出し語には漢字が添えられている(①とC)。『伊呂波和英』ではほぼ例外なく、³⁾『語林集成』でもごく少数の例外を除いて、それぞれの項目は漢字列を添えることによって日本語での意味が示されることになる。しかし上の例で明らかのように項目は同一とみられるのに添えられている漢字(列)の異なるものもある。「疣・朮」「煎・熬」がそうであるが、後者で言えば『語林集成』ではイリゴメ、イリナベ、イリツケル、イリツクには「熬」を使っている。

この漢字列の扱いが両書で異なっているところがある。いわゆる異字同訓の場合、『伊呂波和英』ではそれを生かして英語を示し分けようという姿勢が見られるのである。例えば「謂(イフ) Say(セー)・言(イフ) Speak(スピーク)・云(イフ) Say(セー)」「軍(イクサ) War(ウォーア)・師(イクサ) Army(アーミー)・戦(イクサ) Battle(バトル)」「聞(キク) Hear(ヒーア)・聴(キク) Listen(リツスン)・問(キク) Inquire(インクアイア)」のごとくである。一方の『語林集成』は一項目に原則として漢字はひとつである。イフには「言」が、イクサには「軍」が挙げられている。ただしキクについては「聞」を挙げ、「To hear, listen; to inquire, to perceive, to grant, or permit; (利) to be efficacious, to have effect, power, strength, virtue, or influence; to be clever, acute, expert or good at. (以下の慣用句は省略する)」として、『伊呂波和英』にはない「利く」を()に入れて示している。しかしこれは非常にまれな例であり、ほとんどの場合は漢字ひとつを示すのみである。先述の認定基準によれば、「謂・云・師・戦」は①が一致せず、「部分一致」ということになる。また、本書の「入(イル) (入用) Want(ウラント)・入(イル) (中へ) Come in(カムイン)」は同じ入(イル)でも意味が異なるものを別に立てている。『語林集成』は「I RI, -ru, -tta, イル, 入, i. v. To go into, enter; to hold, contain; to use, to want, to need. (以下略)」としてキクと同様ひとつの項目内で処理している。このように見出し語の立て方が本来異なっているので、例えば『伊呂波和英』何語のうち何語が『語林集成』と一致する、という示し方は困難であるといわざるをえない。

また先に挙げた「一致」の場合は、カタカナ(②とB)・漢字列(①とC)が一致しているにもかかわらず『伊呂波和英』の掲げる Agreementは『語林集成』の注にはみられない。このような場合を一致と見るかどうか。個々の項目ごとに検討していくことが必要であるが、まず見出し語のカタカナ(②とB, すなわちそれは日本語ということになろう。但し厳密に言えば表記は同一でない場合もある)が一致していると判断できることは最低必要な条件になる。漢字列(①とC), 英語(③とD)とは一致しない場合でも同一項目と認められる場合もあることになる。

II 項目の出入り

『伊呂波字引 和英節用』と『和英語林集成』とを比較しているとある種の語について収載に傾向を見出すことができる。ここではそのうちの国名・地名に関する項目、数を含む項目、～学についての項目のそれぞれについて検討する。

II-1 国名・地名について

『伊呂波和英』には42の国名・地名・地域名が収載されている。それを出現順に一覧にし、『語林集成』での状況を記したものが後掲の〈表1〉である。

『伊呂波和英』では「埃及」が「エジフト・エジプト」二様の表記によって重出しているが、それをひとつと数えれば43の国名・地名が収載されている。このうち『語林集成』再版と重なるものはイギリス・ニッポン・ナンキン・オランダ・エゾ・エイコク・シャム（ただしシャムロ）の7項目である。三版ではこれにイタリア・ロシア・ハンガリイ・ドイツ・チリ・エジプト・ギリシヤとGASSHŪ（合衆）の下位項目として-kokuが増補されており、合計15項目が重なっている。

『語林集成』再版から一致している7項目のうち、まずエイコクはもともと本来の地名ではない。また、ニッポン・エゾ・ナンキン・シャムはいわゆるヨーロッパの国名・地名ではない。イギリス・オランダは原語から離れ日本語化した呼称である。こう考えると『語林集成』再版に収載されていたのは厳密な意味で欧米の地名を写したものではないことになる。三版で増補されているものなかでも、ロシア・ドイツ・ギリシヤは英語の呼称とは異なる日本語化した呼称とみることができよう。外来語ならまだしも外国の地名をわざわざ収載する必要はないと考えるのは『語林集成』にとってはむしろ当然のことであろう。『伊呂波和英』では漢字列をもたない見出し語の中に「フランネル・コルベット・スループ形・スクーネル形」といういわば外来語が含まれている。そういったものも見出しとして立て、「原語」を示すという方針を本書はとっている。そして日本人の立場に立てばこういった外来語や欧米の国名・地名を英語でどう言うかを載せてある和英辞典は実用的といえるのではないだろうか。

さらに明治初年の状況をみても、この日本語化した呼称が必ずしも一定してはいないことがわかる。たとえば試みに中村正直訳『西国立志編』から複数の表記やヨミを載せている国名・地名を挙げると「亜米利加・亜墨利加・彌利堅（アメリカ・メリケン）・蘇葛蘭（スカツランド・スカツトランド）・意大利・伊太利・以太利（イタリイ・イタリー）・欧羅巴（エウローパ・エウロープ）・葡萄牙（ポルトガル・ポーチガル）・和蘭・荷蘭（ホルランド・ホランド）」などがある。ここでは『伊呂波和英』と重なるものを挙げたが、統一されているものでも「イーザプト（埃及）・領墨（デンマーク）・法蘭西（フランス）・ジエルマン（日耳曼）・士班牙（スペイン）」など、異なっているものを多数挙げるができる。⁴⁾ 松村明氏は『語林集成』再版から三版への英和の部の改変について「再版では、日本語で説明した形になっているのを、三版では、すべて日本語としての訳語をあてることに徹しようとしているのである」とし、その理由として「これは、一つには、再版では、その英語に対応する日本語としての訳語がまだはっきり固定していなかったのに対して、三版になると、すでにある程度訳語としての日本語が固定してきたためなのであろう。」としている。⁵⁾ 松村氏の言及は英和の部に関してであるが、和英の部の見出し語に挙げられる場合にも、「共通に認識さ

れている形」として固定していることが必要ではないだろうか。

II-2 数を含む項目について

次に数を含む項目についてみていく。まず数詞そのものについて『伊呂波和英』を『語林集成』再版と対照させたものが〈表2〉である。

〈表2〉によれば『伊呂波和英』では一～九の一位，十～十九，二十～九十の十位は網羅的に収載されていることがわかる。さらに百位，千位，万位，億位までを載せるが，なぜか三・五・九に関して漏れがあることがわかる。事情は不明であるが，三・五・九に共通しているところからみると，この種の項目に関しては一～九の数ごとに該当する個所に見出しを立てていき，その際三・五・九は何らかの理由で百位以上を収載しそこなったということであろう。また，シの四音節以上の傍訓が一部，あるいはすべてを欠いているが，これは308ページに集中している。このページは「正味シャウミ・正午シャウゴ」を除いてすべて数詞または数を含む語で，それらについて訓の一部やすべてを欠いているのである。これもまとめて処理しようとした際にこのページについては事故が起こったと考えられる。一方『語林集成』では，一～十までは立項されているが，十一はなく，十二～十九まではJの部に見出し語が立てられるとともに，十四～十八はそれぞれの一位の見出し語の下位にも収められている。十位では二十～四十までは立項されているが，五十～九十は下位項目である。それ以上は二百・三百・四百・六百・七百・九百・三万・四万・七万が下位項目としてみられるが，統一性は見出しがたい。

また，～度，～倍について検してみると〈表3〉のようになっている。

～度に関しては一～九（ただし六のみ六回と表記される）までのすべて，～倍に関しては二～十二までを『伊呂波和英』は見出しとして掲げている。それに対し，『語林集成』は～度では一・二・三・五・六，～倍では三倍のみを主に下位項目として掲げている。はじめに述べたように，『伊呂波和英』はひとつひとつの項目を極限まで切りつめて小冊化をはかっているため，下位項目という処理はできない。そこでかなり網羅的に数を含むこのような項目を見出し語として収載しているのである。

さらに両書を比較すると，『伊呂波和英』にあつて『語林集成』にはない項目として次のようなものが挙げられる。

一里・一度（地球ノ）・一部・一時（時ノ）・一對・一日（イチジツ・アルヒ）・一月（イチゲツ・ヒトツキ）・一月（イチゲツ・正月）・一年・一寸（イツスン・英寸）・一弗（イチドル）・一噸・一枚・一斤（イツキン・英斤）・一劑・一点・一尺（イツシヤク・英国ノ）・一丈（イチジャウ・英国ノ）・一錢（イチセント）・一貫（イチダイム）・一匁（イチオンズ）・一斤（イツポンド）・一行・一部分・一分時（イチブンジ）・一秒時・一瞬時・一週間

この中には，一弗・一噸・一錢・一貫・一匁・一斤のような外国の単位をそのまま掲出したものもみられる。先述の外国の国名・地名と同様，これらは和英の「和」の対象とはなりにくい，知りたい項目ではあり，『伊呂波和英』の「英語で何というか」を示そうとするねらいを端的に現しているとみてよいであろう。

また，一里・一度などは「RI・DO」で立項されている項目である。しかし，一を付した形での見出し語は立てられていない。この二つについて『語林集成』再版での形をみると次のようになって

いる。

RI, リ, 里, n. A Japanese mile, = 4320 yds., or nearly 2 1/2 miles Eng. *Yedo made iku ri*, how many miles to Yedo?

DO, ド, 度, n. A degree in geometry, or division of a thermometer; right or just measure, time. — *wo hakaru*, to count the degrees. *Kon-nichi no atsusa iku do*, how high is the thermometer today? — *wo sugiru*, to exceed the proper degree. *Insyoku no do naki*, no regular times for eating and drinking. *Ichi-do*, once. *Ni-do*, twice, *San-do*, thrice. *Maido*, often. *Iku do*, how often? *Do do*, frequently. — *wo ushinau*, to lose presence of mind, or to be disconcerted. *Gen-rok no* —, in the era of *Genroku*.

『伊呂波和英』では「一度」を二つ立項し、それぞれを(一遍)・(地球ノ)として区別している。『語林集成』では「(一遍)」にあたる I — CHIDO は立項されているが、ここに掲げた「度」の中にも「*Ichi-do*」が下位項目としてみえている。「*ni-do*・*san-do*」についてもこの下位項目にあることがわかる。この状況は三版でも変わらない。いずれにしても once の「一度」は『語林集成』でも立項されるが、one-degree は『語林集成』では「一度」ではなく「度」の形で立項されている。

II-3 ~学について

『伊呂波和英』は約 30 の～学およびそれに類する語を収載している。それについて『語林集成』の状況を対照したものが〈表 4〉である。表から明らかなように、古くから使われている本草学・文学・学問などは当然『語林集成』再版にも載せられているが、それ以外の～学は再版にはまだほとんど載せられていない。

再版になく、『伊呂波和英』に収載される～学は 23 項あるが、三版に収載されているものは 15 で、そのうち半数以上の 8 項目は下位項目として立項されている。例えば SHINRI の下位に-gaku, KAIBO の下位に-gaku というように。これは先述したように本書が基本的に一語で一項目を立てるのに対して、『語林集成』では派生語や派生表現を下位項目として立項するスタイルを取るためである。

しかし、理学・理財学・修辞学・薬剂学・社会学・政治学・政理学・舎密学の 8 項目は三版にも収載されない。⁶⁾

舎密学については、Chemistry を『語林集成』再版の英和の部で検すると、Kuwa gaku, 三版には kwagaku, seimigaku とある。このうちの KWA-GAKU を三版和英の部では立項するが、seimigaku は立項されていない。舎密学はオランダ語 chemie の訳語で、宇田川榕庵の『舎密改宗』(天保 8 年～弘化 4 年刊)によって知られるようになった。明治 2 (1869) 年には舎密局が開局されている。しかし、明治 5 (1872) 年に制定された学制で「化学」が採用され、以後「化学」が主流となっていく。明治 14 (1881) 年刊行の『哲学字彙』では chemistry に「化学」のみが載せられている。しかし『伊呂波和英』がここで収載するのは舎密学のほうである。

一方、社会学は sociology の訳語で、『伊呂波和英』にはもうひとつ世態学が収載され(〈表 4〉— 25)、傍訓はセタイガクとなっている。『語林集成』では三版 SEITAI の下位項目に-gaku が立項されている(再版にも SEITAI はあるが下位項目はない)。『哲学字彙』の初版では sociology に「生態学」とある。ところが明治 17 (1884) 年の再版では「生態学, 社会学」となっている。その間の

明治 15 年に出版された『新体詩抄』に外山正一の「社会学の原理に題す」という創作詩が掲載されている。このように社会学は明治 10 年代に入って用いられるようになった新しい訳語であるが、本書はこれを取り入れ、新旧両形が収められている。

また、「修辞」は中国から来た語であり、rhetoric の訳としても『哲学字彙』にみえている。『語林集成』三版では英和の rhetoric の項に shujigaku が挙げられているが、和英の項目としては shuji, shujigaku とともに立項されていない。

舎密学は古く、社会学は生態学に対する新興の訳語である。修辞学は『哲学字彙』にもみえていない。このように『伊呂波和英』では～学の項目について新しい形・古い形が混在しているが、状況は再版から三版への流れに沿った、つまり時代の状況を反映したものであるということができよう。

II-4 新しい制度に関わる項目

『伊呂波和英』にみえる郵便・鉄道・電信電報関係の項目を「新しい制度に関わる項目」として選び、『語林集成』と対照させたものが〈表 5〉である。

郵便制度は明治 4 年に開始された。『語林集成』再版では英和の部に POST を Hikiyaku とし、和英の部では HI-KIYAKU に A post-man とある。三版にも HI-KIYAKU は継承されているが、一方で YŪBIN が立項されている。YŪBIN の下位項目は-haitatsunin, -kyoku, -kitte, -hagaki, -bako の 5 項で、このうちの前の 3 項が『伊呂波和英』にもおさめられているが「郵便葉書・郵便箱」は立項されていない。

鉄道は明治 5 年に開通した。RAIL-ROAD の訳語としては『語林集成』再版にすでに Tetsudō がみえている。しかし和英の見出しとしては再版でも三版でも立てられない。一方『伊呂波和英』では「鉄道・鉄道局」が収載されている。

電報・電信に関しては、再版から三版への増補と『伊呂波和英』の状況は一致している。三版にはさらに「DENWAKI デンハキ (Telephone)」が収載されている。

『伊呂波和英』には「保険 (ホウケン) Insurance (インジュウランス)」という項目がある。『語林集成』再版にはこの項目はないが、三版には次のようにある。

HŌKEN } ホウケン 保険 (ayauki no ukeai) n. Insurance: -suru, to insure; -ryō, premium of
HOKEN } -; -gaisha, -company; kwasai-, fire-; seimei-, life; -kaijō-, marine-

両書によって保険はホウケンというよみが一般的であったことがわかる。また、『伊呂波和英』には『語林集成』三版に見られる「生命保険・海上保険」は立項されていないが、保険会社 (ホウケンクワイシャ) と船舶保険所 (ロイド) があり、後者は Lloyd が呼称として定着したものと考えられる。

III その他の注目すべき一致について

ここでは『語林集成』再版から三版への改訂が『伊呂波和英』と一致しているものをいくつか挙げる。

江豚 (イルカ) には Dolphin (ドルフィン) とある。『語林集成』再版では The porpoise が挙げ

られている。三版になると漢字列は海豚であるが⁷⁾、英語は The dolphin となっている。porpoise もイルカの一つではあるが、『語林集成』では porpoise から dolphin への改訂が施されたことになる。なお、英和の部には三版でも Dolphin はなく Porpoise のみが立項され、iruka としてある。

性質（セイシツ）には Character（キャラクター）が対応している。『語林集成』再版でこの語には Nature, constitution, temperament, natural disposition, temper が挙げられており、三版になって kind, character が加えられている。このような例は実はかなり多いのである。両書に直接の関係があるのではなく、当時の一般的状況を両書が反映した結果、『伊呂波和英』がひとつ選んだ訳語が三版の増補と一致することになったのだと考えている。

蓴麻（イタイタグサ）は『語林集成』では再版にはなく三版に加えられた項目である。その注に「i. iragusa」とするようになり、この語はイラクサの異称である。『言海』にもこの語は採られているが、なぜこれらの辞書類に掲載されているのかが興味深い。

おわりに

序文にみられた「新語ノ要ヲ採リ」については～学の名称や新しい制度の語などにその様相を探ることができたと思う。また、本書は全体としては『語林集成』再版から三版への流れに沿っており、出版年からうかがえるように三版側に位置づけることができるが、同時に三版よりも新しい部分も見出すことができる。

先述したように『伊呂波和英』は原則として一項目が見出し語ひとつに対して英語をひとつあてるというスタイルをとっている。したがって、『語林集成』が見出しの書き方や下位項目で処理している活用や派生について、必要な場合には別の見出し語として立てなければならない。たとえば、宣言センゲンに対してセンゲンスル、結構ケツコウに対してケツコウナル、圓マルキ、マルク、マルミ、マルサ、占ウラナフとウラナヒ、埋ウズメル、ウズマルなど、このような例は枚挙に暇がない。約 7700 語の見出しのうちこのようなものが多数含まれているとすれば、『語林集成』から見た見出しの数はさらに絞られることになる。外国の国名や地名、数を含む語など本来の「和」の対象となりにくいものも多数収められている。そのような中で本書が全体としてどのような語によって構成されているかを明らかにすることが充分ではなかった。この点については今後の考察をまちたい。

註

1) 使用した本は次のとおり

『伊呂波字引 和英節用』明治 18 (1885) 年 4 月出版春陽書樓蔵版 (架蔵本)

『和英語林集成』再版 明治 5 (1872) 年上海印刷横浜梓行 (架蔵本)

『和英語林集成』三版 明治 19 (1886) 年東京丸善刊 (架蔵本)

なお、引用に際してフリガナは適宜 () に入れて示す。

2) 早川勇編『日本英語辞書年表〈終戦まで〉』(1998 年 岡崎学園国際短期大学人間環境研究所発行) によれば、明治 5 年に『和英通語捷徑』という『和英語林』初版に依拠。(中略) イロハ順の和英辞典がある。あるいはこのような改変されたものも検討の対象とすべきかもしれない、さらに追究する必要があると考える。

- 3) 『伊呂波字引 和英節用』の項目で漢字列を欠くものは「ウネル・クスグル・クスグッタキ・ヤットコ・フランネル・コルベット (船ノ形)・スループ形 (船ノ)・スクーネル形 (船ノ)」の8項目のみである。このうち3語が「船」に関わる語であることは注目される。
- 4) この他、たとえば『輿地誌略』では「以太利・巴黎・ポルチュカル (葡萄牙)・土留古 (トルケー)・イスパニア (西班牙)」などがみえる。
- 5) 講談社学術文庫『和英語林集成』影印解説。なお底本は架蔵本と同じ三版の所謂第二種本である。
- 6) これについては先述の通り『和英語林集成』三版序文に「words only as are in popular and general use」に限ったとあるので、それと関係があるかもしれない。しかし逆にみれば「唯専ラ日用ニ近キ者ヲ蒐集ス」とする『伊呂波字引 和英節用』にこれだけの〜学が収載されていることに注目する必要があるのではないだろうか。
- 7) 飛田良文・李漢燮編『ヘボン著 和英語林集成 初版・再版・三版対照総索引』(2000年 港の人発行)によれば三版の第一種本では再版と同じ「江豚」であり、第二種本(架蔵本・学術文庫影印底本)で「海豚」となった。

〈表1〉『伊呂波字引 和英節用』の国名・地名 一覧

凡例『伊呂波字引 和英節用』は見出し語(漢字列)・傍訓のみを掲げる。見出し語の後の()は本文にある注記である。

『語林集成』の状況は、再版と三版とで異なる場合にそれぞれ再…三…として示した。

見出し語	傍訓	『和英語林集成』の状況
1 伊太利	イタリヤ	再なし 三 ITARIYA
2 英吉利	イギリス	再 IGIRISU 伊幾里須 三同じ
3 魯西亞	ロシヤ	再なし 三 ROSHIA
4 羅馬	ローマ	なし
5 巴里	パリス	なし
6 匈牙利	ハンガリイ	再なし 三 HANGARI
7 日本	ニッポン	再 NIPPON 三同じ
8 葡萄牙	ポルトガル	なし
9 土耳其	トルコ	なし
10 独逸 (国名)	ドイツ	再なし 三 DOITSU
11 智利 (国名)	チリ	再なし 三 CHIRI
12 加那陀	カナダ	なし
13 合衆国	ガツシウコク	再なし 三 GASSHŪ 下位に -koku
14 欧羅巴	ヨウロツパ	なし
15 台湾	タイワン	なし
16 鞑靼	ダツタン	なし
17 南京 (都名)	ナンキン	再 N AN-KIN 三同じ
18 那威	ノールエー	なし
19 和蘭陀	オランダ	再 ORANDA 三同じ
20 馬達加斯加	マダカスカル	なし
21 仏蘭西	フランス	なし
22 普魯西亞	プロシヤ	なし
23 巴西	ブラジル	なし
24 蝦夷	エゾ	再 YEZO 三 EZO
25 英国	エイコク	再 Y EI-KOKU 三 EIKOKU

26 埃及	エジプト	再なし	三 EJIPUTO
27 丁抹	デンマルク	なし	
28 亜細亜	アジア	なし	
29 亜臘斯加	アラスカ	なし	
30 亜非利加	アフリカ	なし	
31 亜米利加	アメリカ	なし	
32 安南 (国名)	アンナン	なし	
33 愛爾蘭	アイルランド	なし	
34 希臘	ギリシヤ	再なし	三 GIRISHA
35 南亜米利加	ミナミアメリカ	なし	
36 暹羅	シヤム	再	SHAMURO 三同じ
37 西比利亞	シベリヤ	なし	
38 上海	シヤンハイ	なし	
39 埃及	エジプト	なし	三 EJIPUTO cf.エジプト
40 費府 (米国ノ府ノ名)	ヒラデルヒヤ	なし	
41 日耳曼	ゼルマン	なし	
42 西班牙	スペイン	なし	
43 瑞西蘭	スウキツツルランド	なし	
44 蘇格蘭	スコツトランド	なし	

〈表2〉 数詞一覧

凡例 『伊呂波和英』欄にカタカナがあるものは傍訓が付され、「Rなし」とあるものは傍訓なしで本書に項目があることを示す。訓のーは訓の一部が示されていないということである。『語林集成』欄の○は、『語林集成』再版に立項されていることを、△は他の項目の下位項目として収載されていることを示す。

『伊呂波和英』	『語林集成』	『伊呂波和英』	『語林集成』
一 イチ	○	十一 ジフイチ	
二 ニ	○	十二 ジフニ	○
フタツ	○・△		
三 サン	○	十三 Rなし	○
ミツ	△		
四 シ	○ (YOTSU あり)	十四 ジフシ	○・△
五 ゴ	○	十五 ジフゴ	○・△
六 ロク	○	十六 Rなし	○・△
七 シチ	○	十七 Rなし	○・△
八 ハチ	○	十八 Rなし	○・△
九 ク	○	十九	○
コ、ノツ			
十 ジフ	○	百 ヒャク	
二十 ニジウ	○	二百 ニヒャク	△・△
三十 サンジフ	○	三百	△・△

四十	シジフ	○	四百	ーヒャク	△
五十	ゴジウ	△	五百		
六十	ロクジフ	△	六百	ロクヒャク	△ (roppiyaku)
七十	Rなし	△	七百	Rなし	△
八十	ハチジウ	△	八百	ハチヒャク	
九十	クジウ	△	九百		△
千	セン	○	一万	マン	
二千	ニセン		二万	ニマン	
三千			三万		△
四千	シセン		四万	シマン	△
五千			五万		
六千	ロクセン		六万	ロクマン	
七千	Rなし		七万	Rなし	△
八千	ハチセン		八万	ハチマン	
九千			九万		
一億			十万	Rなし	
二億	ニオク		三億		
四億	シオク		五億		
六億	ロクオク		七億	ーオク	
八億	ハチオク		九億		
十億	ーオク				

〈表3〉 ～度・～倍の対照一覧

凡例 〈表2〉 と同じ

	『伊呂波和英』	『語林集成』		『伊呂波和英』	『語林集成』
一度	イチド (一遍)	○・△	倍		○
	ヒトタビ	△	二倍	ニバイ	
二度	ニド	○・△	三倍	サンバイ	△
	フタ、ビ	△	四倍	シバイ	
三度	サンド	△	五倍	ゴバイ	
	ミタビ	△	六倍	ロクバイ	
四度	ヨタビ		七倍	ーバイ (シ4・シ5にあり)	
五度	ゴタビ	△	八倍	ハチバイ	
六回	ロクタビ	△ (roku-do)	九倍	クバイ	
七度	ータビ (シ4・シ5にあり)		十倍	ーバイ	
八度	ハチタビ		十一倍	ーバイ	
九度	クタビ		十二倍	ーバイ	

〈表4〉『伊呂波字引 和英節用』の～学一覧

凡例 『伊呂波字引 和英節用』は見出し語（漢字列）・傍訓のみを掲げる。一字下げは派生語を示す。通し番号は「～学」のみに付した。『和英語林集成』の状況は、再版と三版とで異なる場合にそれぞれ再…三…として示した。△は『伊呂波和英』で挙げられている英語と『語林集成』の英語とが異なることを示す。

見出し語	傍訓	『和英語林集成』の状況
1 医学	イガク	再なし 三△ I GAKU
2 論理学	ロンリガク	再なし 三△ RONNRI 下位に-gaku
3 法律学	ハフリツガク	再なし 三 HORITSU 下位に-gaku
4 博物学	ハクブツカク	再なし 三△ HAKUBUTSU-GAKU
本草家	ホンソウカ	H ON-ZO-KA
5 本草学	ホンソウガク	△H ON-ZO-GAKU
本草学者	ホンソウガクシヤ	なし
6 統計学	トウケイガク	再なし 三△ TOKEI 下位に-gaku
7 理学	リガク	なし
理学者	リガクシヤ	△R I-GAKU-SHA
8 理財学	リザイガク	なし
9 経済学	ケイザイガテ (ママ)	K EIZAI 下位に-gaku
10 文学	ブンガク	△B UNGAKU
11 物理学	ブツリガク	再なし 三△ BUTSURI-GAKU
12 語学	ゴガク	再なし 三 GOGAKU
語学者	ゴガクシヤ	再なし 三 GOGAKU 下位に-sha
13 哲学	テツガク	再なし 三 TETSUGAKU
哲学者	テツガクシヤ	再なし 三 TETSUGAKU 下位に-sha
14 天文学	テンモンガク	再なし 三 TEMMON 下位に-gaku
天文学者	テンモンシヤ	T EMMON-SHA
算術	サンジュツ	S AN-JUTSU
技術博士	キジュツハカセ	なし
15 修辞学	シウジガク	なし
16 心理学	シンリガク	再なし 三 SHINRI 下位に-gaku
17 学	ガク	G AKU
学者	ガクシヤ	△G AKU-SHA
学文	ガクモン	なし
学問	ガクモン	△G AKUMON
18 解剖学	カイボウガク	再なし 三 KAIBO 下位に-gaku
19 薬剂学	ヤクザイガク	YAKUZAI はあり再なし 三なし
20 修身学	シュウシンガク	再なし 三 SHUSHIN 下位に-gaku 英なし
21 社会学	シヤクワイガク	なし
22 政治学	セイジガク	なし
23 生理学	セイリガク	再なし 三 SEIRIGAKU
24 政理学	セイリガク	なし
25 生態学	セタイガク	なし

26舎密学	セイミガク	なし
27生物学	セイブツガク	再なし 三 SEIBUTSU 下位に-gaku
政治学者	セイジガクシヤ	なし
生理学者	セイリガクシヤ	再なし 三 SEIRI 下位に-gakusha あり
数学者	スウガクシヤ	再なし 三 SUGAKU 下位に-ka あり

〈表5〉新しい制度に関わる項目一覧

凡例 〈表1〉に同じ

見出し語	傍訓	『語林集成』の状況
郵便	イウビン	再なし 三 YŪBIN
郵便局	イウビンキヨク	再なし 三 YŪBIN 下位に
郵便切手	イウビンキツテ	再なし 三 YŪBIN 下位に
郵便配達人	イウビンハイタツニン	再なし 三 YŪBIN 下位に
保険	ハウケン	再なし 三 HŌKEN・HOKEN ホウケン 下位項目として-suru, -ryo, kwasai-, -gaisha, seimei-, kaijo-
船舶保険所	ロイド	なし
電報	デンハウ	再なし 三 DEMPŌ
電信	デンシン	再なし 三 DENSHIN
電信機	デンシンキ	再伝信機 三 電信機
電信線	デンシンセン (Telegraph line)	再なし 三 DEN-SEN (Telegraph wire)
鉄道	テツダウ	なし
鉄道局	テツドウキヨク	なし